

「新しい丸山眞男像の発見

その世界大の視圏と交流のなかで」開催にあたって

丸山眞男記念比較思想研究センター長 篠目清美

丸山眞男記念比較思想研究センターは、丸山文庫が創設されて以来、文庫の資料の保管・調査・公開・研究を行っている。そして、その事業を大きく進めるために、二〇二二年度、「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」研究プロジェクトを立ち上げ、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、資料のデジタル化と公開、その資料を活用した研究を行って来た。

二〇一六年度は、本事業の最終年度に当たするため、事業の総仕上げとして、国際シンポジウムを企画した。また、本年は丸山眞男没後20周年にも当たることから、「丸山眞男没後20周年記念国際シンポジウム」とし、標題は「新しい丸山眞男像の発見 その世界大の視圏と交流のなかで」とし、一〇月一四日に開催した。

シンポジウムは、午前の平石直昭氏（東京大学名誉教授・丸山眞男

文庫顧問）によるご講演と、午後のパネルディスカッションの二部構成で行われた。パネルディスカッションでは、ヴォルフガング・ザイフェルト氏（ハイデルベルク大学名誉教授）、孫歌氏（中国社会科学院文学研究所教授）、アンドリユー・E・バーシェイ氏（カリフォルニア大学バークレー校教授・紙上参加）、金錫根氏（峨山政策研究院教授）からご報告があった。その後で、黒沢文貴氏（東京女子大学教授）が各報告についてコメントを行った。その後、中田喜万氏（学習院大学教授）の司会によって、各報告者から、黒沢氏のコメントに対する応答が行われた。さらに、会場の参加者との間で、質疑応答が行われた。丸山眞男は「戦後民主主義の旗手」「戦後日本の思想家」等とよくいわれる。しかし実際の彼は「戦後」の枠をはるかに超える歴史的視野をもち、一国の枠を超える知的交流によって学問・思想を育んだ知識人だった。日本思想の始原にまで遡り、その批判的な対象化を目ざし

た丸山は、同時に、二〇世紀を代表する世界的な知のネットワークを担う知識人でもあった。本シンポジウムは各国のすぐれた丸山研究者・日本研究者を招き、こうした「新しい丸山眞男像」を本プロジェクトの研究成果として提示した。

本シンポジウムの内容については、中田氏による概要が『東京女子大学学报』二〇一六年度第四号（同年一二月発行）に掲載されている。本書では、平石氏、ザイフェルト氏、孫氏、バーシェイ氏、金氏、黒沢氏の校正を経たうえで、シンポジウムの記録全文を掲載させていただく。

シンポジウムにおいて、ご講演・ご報告いただいた諸氏に感謝申し上げます。またご参加いただいた各位に御礼申し上げます。